

【樹木の部屋】

ヒイラギ (モクセイ科モクセイ属 Osmanthus heterophyllus)

和名：ヒイラギ(柗、疼木、柗木) **別名**：ヒラギ、オニノメツキ、オニサシ

英名：holly osmanthus

シソ目 常緑小高木

原産地：日本、台湾

花言葉：用心深さ、先見の明、保護

花色：白



← 写真-1 ヒイラギ

撮影日：2020年4月25日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん

→ 写真-2 ヒイラギの葉

撮影日：2020年4月25日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 ヒイラギの新芽

撮影日：2020年4月25日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



←写真-4、5 ヒイラギの雄花
撮影日：2020年11月22日
採取場所：奈良市郊外にて
撮影者：M さん



ヒイラギは古くから邪気を払うとされ、庭木として植えられてきました。家の庭には表鬼門(北東)にヒイラギ、裏鬼門(南西)にナンテンの木を植えると良いとされています。節分の日には、厄除けとして、ヒイラギの枝にイワシの頭を刺したものを門口に立てる風習が今も残っています。

葉の縁に鋭い刺のあることで知られるヒイラギですが、その名は、ヒリヒリ、あるいはズキズキと痛むことを表す「ひいらぐ(疼)」ということばに由来するとも言われています。

葉は対生し、革質で光沢があり、その形は楕円形から卵状長楕円形をしています。その縁には先が鋭い刺となった鋭鋸歯がありますが、老樹になると葉の刺は次第に少なくなり、縁は丸くなってしまいます。

花期は11～12月で葉腋に白色の小花を密生させます。花は同じモクセイ属のキンモクセイに似た芳香があり、花冠は4深裂して、径5mmほどになります。雌雄異株で、雄株の花は2本の雄蕊が発達し、雌株の花は花柱が長く発達して結実します。

幹は堅く、しなやかであることから、衝撃などに対し強靱な耐久性を持っています。このため、玄翁と呼ばれる重さ3kgにも達する大金槌の柄にも使用されています。特に熟練した石工はヒイラギの幹を多く保有し、自宅の庭先に植えている方もいるそうで、他にも細工物、器具、印材などに利用されるそうです。

ヒイラギは、成長はやや遅いものの萌芽力があるため、強く刈り込んでもよく枝を出します。そのため自然樹形だけでなく、円柱形やトピアリー仕立て、生け垣など、さまざまな樹形に仕立てることができます。

春と秋、年に2回、枝抜き剪定か刈り込みをして樹形を整えます。上部の枝ほどよく伸びるため、上のほうの枝は強めに切り詰め、下枝ほど軽く刈り込む程度にして、全体のバランスを取るようにします。ただし、花を楽しみたい場合には、4月以降に伸びた枝に花芽をつけるので、4月以降の強剪定や刈り込みは避けると良い。

太い枝を切っても新しい芽が出やすいため、樹形が大きく乱れた場合は、太い枝を切り詰めて形を作り直すことも可能です。

<ちょっと一言>

ヒイラギと名がつく植物は、いくつかあります。

＊ヒイラギ(柊：モクセイ科)；節分に用いられます。

＊セイヨウヒイラギ(西洋柊：モチノキ科)；クリスマスの飾りとして用いられます。

＊ヒイラギナンテン(柊南天：メギ科)；和風の庭園で多く用いられる。

＊ヒイラギモクセイ(柊木犀：モクセイ科)；ヒイラギとギンモクセイ(銀木犀)の雑種です。